

「分かる・できる授業づくり」にはUDの視点が欠かせません。日々の授業を振り返ってみましょう！

振り返ろう！ 「ユニバーサルデザインの 授業づくり」 チェック表

中部教育事務所 特別支援教育担当



I 環境の工夫

落ち着いた学習に取り組めるよう、
環境を整える（場を構造化する）。

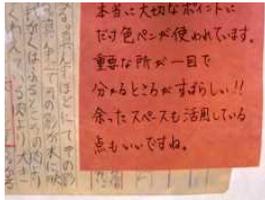
- 何をどこに片付けるか、明確にする。
- 教室の前面を意識的にすっきりさせる。
- 掲示物をカテゴリー別に分ける。
- 1日のスケジュールや1時間のスケジュールを提示する。
- 学習の目標やねらいを分かりやすく示す。
- 授業の始めや途中に、学習に必要なものが出されているか確認する。
- 学習姿勢や学習規律を具体的に指示する。



V 評価の工夫

子ども一人一人の力を出し切ることができるようにする。

- 具体的に子どもに伝わる方法で褒める。
- 評価が目に見えるように示す工夫をする。（○印を入れる、シールを貼る、結果のグラフ化等）
- 適切な行動と結びつくように、行動の直後に評価を行う等、賞賛や注意のタイミングをはかる。

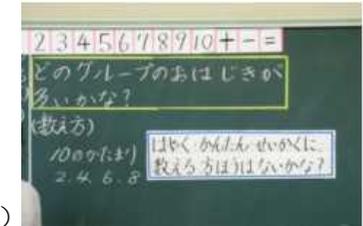


『すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック』
(高知県教育委員会令和3年3月)

II 情報伝達の工夫

みんなに伝わるように伝え方を工夫する。

- 具体的で明確な指示を意識する。（指示語を多用しない。）
- 言語指示だけでなく、視覚的な指示も活用する。
- 活動の途中で指示を出すときは活動を止めてから話をする。
- 文字の大きさや量を考慮する。
- 授業の流れが分かる板書にする。
- 子どもの様子を確認し、板書を写す時間を確保する。

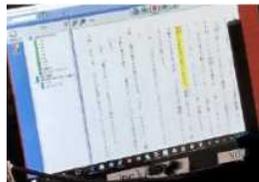


IV 教材・教具の工夫

みんなが興味・関心をもって分かり合えるようにする。

- ワークシート等を活用する。
- 身近な生活の中から、教材を見付けるようにする。
- ICTを活用し、学習内容が理解しやすくなる工夫をする。

【ICTを活用した読み書きの困難さへの合理的配慮（例）】



- ◇書かれたテキストを音声に変換して提供する。
- ◇音声認識ソフトウェアを使用して、声で文章を入力する。
- ◇手書きが難しい場合、キーボード等で入力する。
- ◇板書計画を印刷して配布する。
- ◇カメラ機能で板書を撮影する。
- ◇ICレコーダー等で授業中の教員の説明等の録音をする。



学習の困難さを抱えている子どもたちへ、ICTを活用した合理的配慮の例をご紹介します。



III 活動内容の工夫

一人一人が意欲的に取り組み、関わり合えるようにする。

- 理解が早い子どもへの対応を行う（次の課題を事前に準備する）。
- 「動」と「静」の活動を組み合わせ、授業にメリハリをつける。
- 課題のモールステップ化を図る。
- 具体物を使用する。
- 難易度がちがう活動内容や課題を用意し、子どもが選択できる場面を作る。
- 体験的な学習を取り入れる。
- ペア学習・グループ学習を取り入れ、子ども同士が関わり合い、学び合える場を設定する。

